

2026～2027 SHIKI WEEKLY

国際ロータリー 第2570地区 第2グループ



持続可能な
インパクトを
生み出そう

志木ロータリークラブ

2026-27年度 国際ロータリー 会長 オラインカ・ハキム・ハバロラ 「CREATE LASTING IMPACT」
2026-27年度 第2570地区 ガバナー 原島 生慈 「ロータリー活動に誇りを！」
2026-27年度 志木ロータリークラブ 会長 國分 学 「志木 SHIKI プライド」

第2478回 例会

2026-8-19

- ◎司会 末富 啓道 副会長
- ◎点鐘 國分 学 会長
- ◎ソング 我らの生業
- ◎ソングリーダー 田中 幸彦 会員
- ◎四つのテスト 田中 幸彦 会員
- ◎ゲスト 阿久根 謙司 様(東京ガス星光会会長)



ソングリーダー・四つのテスト 田中幸彦会員

「会長挨拶」

会長 國分 学

本日はお盆休み明けの通常夜間例会となります。連日の厳しい猛暑の中、そしてお仕事やお盆行事でお忙しい中、例会にご参加いただきありがとうございます。

皆様、お盆休みはご家族とゆっくり過ごせましたでしょうか。この暑さの中でも、こうして例会に足をお運びいただき、皆様の元気な笑顔を拝見できることが、私にとって何よりの活力です。まだまだ残暑が続きますので、体調管理にはくれぐれもお気をつけください。

本日は何年ぶりでしょうか。卓話者には元Jリーグ FC 東京社長の阿久根謙司様をお迎えしていますので時間を巻いていきたいと思い



ます。

さて、お盆休み直前の8月5日には、私たちの伝統ある姉妹クラブ「小諸ロータリークラブ」への訪問・合同例会が開催されました。ご出席いただいた皆様、長距離のご移動、本当にお疲れ様でした！花岡会長をはじめとする小諸 RC の皆様には、半世紀を超えて培われてきた深い絆そのままに、大変温かくお迎えいただきました。現地で小諸の爽やかな空気に触れ、両クラブを繋ぐ歴史を振り返りながら語り合った時間は、大変有意義なものとなりました。我が志木 RC のテーマであります『志木 SHIKI プライド』の根底には、こうした小諸の皆様との友情と歴史が息づいているのだと、改めて実感いたしました。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

そして、今週はお盆の時期でもあります。ご家庭でお墓参りをされ、ご先祖様に手を合わせられた方も多いのではないのでしょうか。

ロータリーにおいても、このお盆は私たちのクラブの「ルーツ」に思いを馳せる大切な機会です。昭和47年に志木ロータリークラブが

8 月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」です

誕生してから 50 年以上。今日、私たちがこうして素晴らしい環境で例会を開き、地域を中心となって活動できているのは、決して当たり前のことではありません。クラブの礎を築き、どんな時代もロータリーの灯を繋いでくださった、歴代会長をはじめとする先人・先輩ロータリアンの皆様の情熱があつてこそ、今の私たちが存在しています。

既に鬼籍に入られた先輩方も含め、志木の街と当クラブのために尽力されたすべての先達に、深く感謝を捧げたいと思います。「過去に感謝し、現在を楽しみ、未来へ繋ぐ」。先輩方が遺してくださった伝統と『志木 SHIKI プライド』を胸に、今度は私たちがこのバトンを未来の仲間や子供たちへと繋いでまいります。先人への感謝を力に変えて、お盆明けも会員一丸となって楽しく活動していきたいと思います。

以上をもちまして、本日の会長挨拶といたします。今夜もどうぞよろしく願いいたします。

「理事会報告」 会長 國分 学

- 1) 川と街をきれいにする運動
活動助成金を 100,000 円拠出
- 2) 交換留学生受け入れについて
- 3) 岩下悟朗新会員の入会について
8 月 26 日オブザーバーで調整中
- 4) 金剛年度会計決算報告について
- 5) 年度計画書作成後の正誤表について
- 6) 志木シンボル塔撤去工事について
8 月 20 日撤去
- 7) 志木おやこ劇場協賛依頼について
5,000 円×3 口=15,000 円 寄付承認
- 8) 熊本地震支援金について
100,000 円を拠出
- 9) 十文字学園女子大学への移動例会の件

「幹事報告」 幹事 影山 和良

1. 地区事務所より 5 件受信
- 第 2570 地区ポリオデーのご案内
内容: 日本スリーデーマーチ 10 km ウォーキング (森林公園コース) に参加
日時: 2026 年 11 月 1 日 (日) 9:00 集合
集合場所: 中央会場
参加登録費: 大人¥2,000/高校生以下¥500
- 第 55 回ロータリー研究会
会期: 12 月 1 日 (火) ~12 月 4 日 (金)

テーマ:「ひらこう、ロータリーの未来—出会い、学び、行動する研究会—」

会場: リーガロイヤルホテル大阪

○2026~27 年度メイクアップ Day 登録のお願い (案)

○地区補助金申請承認のお知らせ

○11 月ロータリー財団月間卓話者派遣依頼申込書の案内

2. 公益財団法人米山梅吉記念館より賛助会員入会依頼と周期例祭のご案内

米山梅吉館報秋号 2026Vol・48 受信

3. バギオだより 2026 年 7 月号 vol. 115 受信

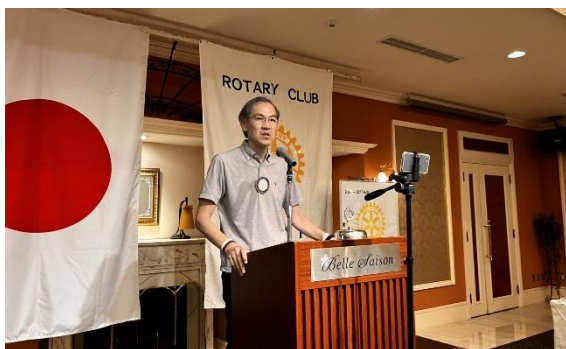
4. ハイライトよねやま vol. 317 2026 年 8 月 13 日発行

「今月の誕生日」 親睦活動委員 細田いづみ



1 日 上野剛彦会員 8 日 田中幸彦会員
22 日 西川和人会員

「誕生日スピーチ」 上野 剛彦 会員



今年で 57 になりました。50 代になりました、山登りを始めました。山登りを始めた当初に、日本の高い山を 5 個登ろうと決めまして、先日、富士山に登って、日本の高い山、1 番目から 5 番目まで、全部 50 代で登ってきました。次に何しようかなと、今いろいろ考え中でございます。本日はどうもありがとうございました。

「『ロータリーの友』8月号記事紹介」

雑誌委員会 副委員長 上野 剛彦

【横組】

P6～7 ロータリーはもっと自由になれる
広がるクラブのかたち
福岡エアポートRCの取り組み

【縦組】

P2～6 小谷真樹氏「最愛の娘を奪われて」
一瞬で奪われた娘の命と家族の日常
大切な人と過ごす時間は決して当たり前じゃない
P17 ロータリーあるある相談室 外ウーが入っているという理由でロータリーへの入会を拒否するのか

「卓話者紹介」

高嶋 英一 会員

阿久根さんは東京ガスの同期で、東京六大学野球で活躍後、東京ガスへ入社。FC 東京社長やさいたま支社長などを歴任し、現在は東京ガス星光会会長を務めています。コーチングの講演でも活躍され、今回は久しぶりにご講演いただきます。

「卓 話」

「木の上に立って見ましょ～部下の自立を育むコーチング～」

東京ガス星光会会長 阿久根謙司様



皆さん、こんにちは。本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。

私が 29 年間取り組んできた「コーチング」についてお話しします。コーチングとは、簡単に言えば「教えない、指示命令しない」ということです。私が答えを教えるのではなく、相手に質問をして、自分で考え、自分の言葉で話してもらう。その繰り返しによって、人は自立していきます。

私は野球を通じて、「自分たちで考えて、自分たちでゲームをつくる」という考え方を学びました。その経験が、コーチングを実践するきっかけになりました。

私は野球を通じて、「自分たちで考えて、自分たちでゲームをつくる」という考え方を学びました。その経験が、コーチングを実践するきっかけになりました。

その後、FC 東京の社長を務めることになりました。私は野球出身で、サッカーのことは詳しくありませんでした。そこで、選手 30 人に一人ずつ「なぜ J2 に落ちたと思うのか」「どうすればいいと思うのか」と聞きました。

すると、選手たちが自分で考えて行動することができていない、という共通の課題が見えてきました。

そこで、私が答えを出すのではなく、選手自身に考えてもらうことを徹底しました。ある時、選手たちが「自分たちにはパスサッカーがある。もう一度、パスをつなぎさせてください」と監督に訴え、それが受け入れられました。すると翌日から、選手たちの目の色が変わりました。「自分たちで決めたんだから、やり切ろう」と、主体的に動き始めたのです。その結果、チームは J1 に復帰し、天皇杯でも優勝することができました。

この経験から、私は「自立させるためには、考えさせることが必要だ」と強く感じました。

もう一つ大切なのが、失敗を認めることです。指示命令型の組織では、失敗すると怒られるので、部下はミスを隠したり、嘘をついたりするようになります。そうではなく、「失敗したね。なぜ失敗したのか、一緒に考えてみよう」と問いかける。失敗を成長の材料に変えることが大切です。

そして、成功した時には「なぜ成功したの?」と聞いて、しっかり認めて褒める。これを繰り返すことで、逆境に強くなり、失敗を恐れずチャレンジできる人になっていきます。

コーチングで大切なのは、「質問する」「相手の話をよく聞く」「掘り下げる」「認めて褒める」、そして「黙って待つ」ことです。上司はついつい、自分が答えを知っているので教えたくります。しかし、それでは部下は自立しません。質問して、相手が考えている間は黙って待つ。これが非常に重要です。

そして、もう一つ大切なのが「言語化」です。自分がなぜ成功したのか、なぜ失敗したのかを自分の言葉で説明できるようになると、その経験を次にも再現できるようになります。教えられた通りにやるだけでは、たまたま成功したのかもしれない。自分で考え、言葉にすることで、本当の意味で自分の力になるのです。

今日の講演のタイトルを「木の上に立って見ましょ」としました。これは、親や上司が、木から降りてきて何でも教える「過保護」でも、木から離れて放っておく「放任」でもい

8 月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」です

けない、という意味です。

木の上に立って、少し離れたところから相手を見ている。そして、必要な時に「どうしてそうしたの?」「次はどうしたらいいと思う?」と質問する。そうすることで、相手が自分で考え、話し、行動し、自立していくのです。

今は、正解のない時代です。だからこそ、答えを教えるのではなく、自分で見て、考えて、動ける人を育てることが大切です。これは会社でも、学校でも、家庭でも同じです。

ぜひ今日から、部下やご家族に、すぐ答えを教えるのではなく、「どう思う?」「なぜそう思ったの?」と一つ質問してみてください。そして、相手の話を最後まで聞いてみてください。

それが、相手の自立につながるコーチングの第一歩だと思います。

(紙面の都合上、一部内容を編集のうえ掲載しております)